

BPW News Letter JAPAN

Official Newsletter of National Federation of Business and Professional Women's Club of JAPAN



2005.5.25
Vol.82

【特集】 BPW の将来に向けて

CONTENTS

巻頭メッセージ
新会長として
連合会会長 黒崎伸子

事業報告
2005年 UN-CSW インターン報告

アントワネット会長メッセージ
BPW News International より

お知らせ
2005年各ブロック研究会

会議報告
2005年第1回評議会報告

日本BPW連合会ニュースレター

発行人：黒崎伸子 広報委員会編集

日本BPW連合会 事務局

〒160-0023

東京都新宿区西新宿 3-5-12-116

TEL.03-3348-7644

FAX.03-3348-7648

E-mail=info@bpw-japan.com

ホームページ URL

http://www.bpw-japan.com

私とBPW...そして、2005年 連合会はいま！

日本BPW連合会会長 黒崎 伸子

1986年12月13日、長崎の有職婦人クラブ設立式の片隅に私はいた。連合会役員として高橋久子前会長が出席された。当時、29歳、外科医になって5年目。東京女子医大・聖隷浜松病院・国立小児での研修を終え、小児外科の専門医になろうと決めた頃であった。

岩元静子・初代会長に誘われて入会したが、その理由が何だったのか、なぜか思い出せない。ほとんどが50代以上、一回りも二回りも違う先輩たちの話を聞き、彼女たちの決定についていくだけの数年間であった。留学生のためのバザー、シルバーファッションショー、こどもの権利に関する活動、男女平等や高齢者社会福祉の進んだ北欧研修、70歳以上の有職女性を取材した冊子「老いを創る」の発行など、かなり先進的な事業ばかりだった。そのうちに、先輩についていくのではなく、同世代の仲間と新たな企画を出し、実施できるようになってきた。

長崎での活動だけで結構忙しくしていたのだが、1992年初めて連合会総会（仙台大会）に出席し、全国にはもっと凄い先輩がいることを知った。その大会でベストメン賞に選ばれた鹿嶋敬さん（元日本経済新聞編集委員、実践女子大学人間社会学部教授）とは今も親しくしている。1995年に長崎で開催した全国大会では大会事務局長を務め、少し連合会の状況が理解できた。2月11・12日の大会だったが、1月17日、あの阪神淡路大震災が起こり、長崎クラブも連合会も総会中止かと大揺れした日々が懐かしい。

あれから10年、初めて総会に参加した仙台の地で私が連合会会長に選ばれたのも、何かの縁だろうか。この4年間は副会長でありながら、「国境なき医師団」ボランティアとして、2001年スリランカに4ヶ月、2003年イラクミッションに2ヶ月参加させて頂いた。連合会の仕事は、複数の有能な役員たちで十分に機能しており、また、連合会役員間ではICTs化が進んでいたため、海外にいても何かの役割は果たせたと思う。

さて、長崎という西の果てで連合会会長の役割が十分に果たせるのかどうかを心配されている方も多いただろう。しかし、それよりも、全国に私より若い会員が少ないことを心配する。会員の高齢化ということは事実であり、問題ではない。それよりも、これまでBPWを支えてきた会員が、今、BPWで何をするかである。第一線から離れるとどうしても前に向かうより、後を振り返りがちになる。BPWは働く女性の集団である。今、日本の女性がどのような現状にあり、これから労働の場に出て行く女子学生たちの将来はどうなるのか・・・、それを的確に分析して、BPWの活動に取り込むには、やはり、会員にその現実のなかにいる世代がいないと、問題意識が薄れがちになるのではないだろうか。

最近の日本の行方を握る政治家たちによる壮絶な男女平等に対するバックラッシュは深刻な問題である。BPWが何をするかではなく、“BPWで何をするか”を問い直していきたいと思っている。



- 中心テーマ 1. 北京行動綱領計画および「2000年女性:21世紀の男女平等、開発、平和」総会の成果についての見直し
2. 女性の地位向上・能力開発のための最近の取組みおよび今後の戦略

今年の国連女性の地位委員会に、天沼博美さん、富永奈奈さん、飛田美樹さんの3人が日本 BPW 連合会からのインターンとして派遣されました。今回は、仙台大会と開催時期が重なったため、事前のブリーフィングを十分にできないまま、連合会からは平松前会長および布柴副会長が遅れて NY に到着し、前半の日程にいっしょに参加しました。

「ニューヨークは寒く、そして熱かった」

副会長 布柴靖枝

1. 今年の CSW について

CSW(女性の地位委員会)は、すでにご周知の通り、女性の地位向上を目指して具体策を検討する政府閣僚級会合で、毎年、NY の国連本部で開催されています。国連に認められた諮問機関の NGO 団体である BPW も会議中に意見を述べる事が可能です。

今年のテーマは、北京世界女性会議から 10 年目の総括をするという節目の年であるため、政府や NGO 代表約 6000 人が集まるという熱気にあふれたものとなりました。ところが、参加者が殺到し、1 団体 2 名までの会議場に入れるパスしかもらず、順番制で本会議場に入るという形態になりました。

今回の CSW では、北京会議で採択された「12 項目」を後退させず、追認していく方針ですすめられました。ところがー

2. 物議をかもしたアメリカの修正決議案

今年もさまざまな決議案が議論されたのですが、特にアメリカ・ブッシュ政権がキリスト教右派の支持基盤を元に、「中絶の権利を認めない」という修正決議案を出したために、大変な物議をかもし、しばらくすべての審議がストップして進まない、という事態になり、緊張感が漂う CSW のスタートとなりました。

これに対し、世界各国の反対多数のロービーイングが数日間激しく展開され、さすがの強硬姿勢のアメリカ政府もついにそれを取り下げました。「アメリカ政府は修正案を取り下げました」と議長から報告があると、会議場内は拍手喝采でした。世界中の女性たちの声の中にブッシュ政権の声がかき消され、「性の自己決定権」が守られた瞬間でした。

3. 今年度のインターン生たち

今年は前述のように北京 + 10 の年で、多くの参加者が見込まれる、どのような形態になるのか現地に行くまで把握できず、気をもみながらの参加になりました。ところが、われわれの心配をよそに、インターン生 3 人も海外滞在経験がある自律的な学生であったため、それほどの混乱はなく、それぞれのテーマを持ちながら充実した時間を過ごしてもらえたようです。今年度のインターン生は、3 人も就職を控えていることもあり、自分

自身のキャリアや生き方を真剣に考え、必死に模索している様子に触れ、大変頼もしく感じました。平松前会長の半生/キャリア談にも熱心に聞き入り、世代を超えた交流が図られました。改めて、これらの将来ある若い女性に、国連インターン参加の機会を提供するこの事業の重要性を再確認しました。10 年あるいは 20 年後に成果の上がる植林のような地道な作業かもしれませんが確実に未来に種を蒔いていることを実感しました。

4. 今後のインターン制度についての成果および検討要の評価について

本事業は、今回でまだ 2 回目です。インターン生の旅費・宿泊費など全額自費負担を前提にスタートした事業ですが、現地で並行して行われる BPWI のミーティングやオフィシャルディナーなどに出費がかさみ、インターン生への金銭的負担がかかるためすべての BPWI の会議に参加できないことがわかりました。BPWI とのメンバーとの交流を持つ機会を多くもってもらうためにもこれらの会議への参加費用分(2~3万円程度)の援助ができるような手立てを今後考える必要を感じました。また、この意義あるインターン制度を定着させるためには、その実績評価も求められます。現在、役員会で検討中ですので、改めて評議会・総会に提案致します。

5. 国連の動向から学んだこと

今、国連では、さまざまな女性問題に女性だけが取り組むのではなく、男性といかに協働していくかがやっと論議され始めています。男女のパートナーシップに関わらず、お互いの違いを生かしあう過程は、決して楽な道ではありません。何度も何度も繰り返し同じことを各国が確認しながら進めていくのです。その会議の進め方に、時折、眠気(と嫌気?)がさすのですが、国の価値観・人種・宗教などの違いを乗り越えて共同提案を作り上げていくためには、非常に大切に時間をかけなくてはいけない地道なプロセスなのだ改めて確認しました。

国外の様々な紛争で女性・子どもの犠牲者が増え続け、日本国内では、激しいバックラッシュが起こっています。これに対抗するためにも、国連での会議の進め方に学びながら BPW の活動を進めていく必要があると強く思いました。

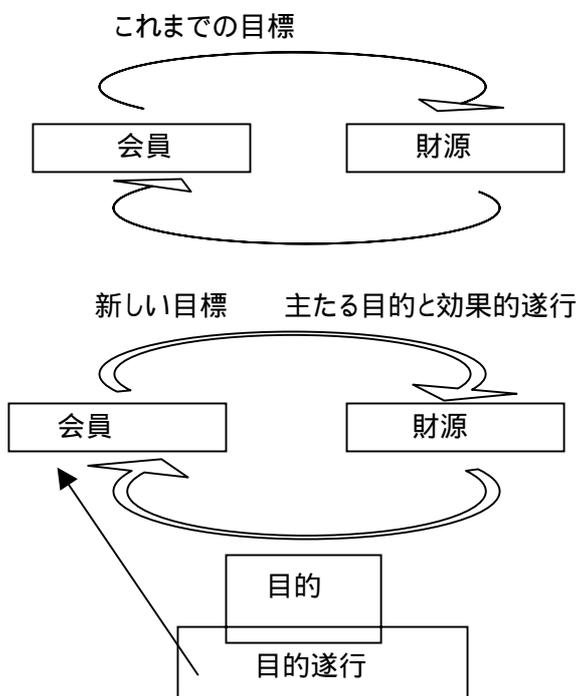
BPW News International Jan - May 2005
アントワネット会長からの巻頭メッセージ

BPW インターナショナルの将来像

過去 20 年を振り返ると、BPW の会員数の減少が著しい。これは、BPW インターナショナルを維持する財源が不十分であることを意味している。会費の値上げや会員数の増大などの要請は、長期にわたって機能する方策ではない。

次の二つの要素を確保することが長期的な成功につながるという明らかな調査結果が得られた。

- (1) より明確な目的を絞る。
- (2) この目的の範囲内で専門性を発揮する。



新しい方策が BPW に意味するものは、頻繁に BPW の会員から聞かれることは、BPW の目的は何かということである。BPW の規約の中にはその目的が様々に述べられている。たとえば、機会均等に関するものでも、法律、ビジネス、経済、就労、教育、平和、健康、環境、文化などそれぞれの場面での機会均等を唱っている。これまでも BPW は国連と歩調をあわせながら、各機関と連携し、交渉し、協調しながら BPW そのものの活力を十二分に引き出せるよう活動してきている。しかし、では BPW の主たる目的を問われたとき、その答えは何か？

目的は、「BPW が持っている幅広い専門的知識や技術において、あらゆる水準における女性の専門的可能性の開発（能力を引き出すこと）である」と言える。BPW の創設者・レナ・フィリップス博士が指摘されたように、「女性の専門的可能性の開発は、自らの専門性の可能性を開発することから始まる」。世界の BPW インターナショナル内にあるすべてのクラブと連合会にとってこれは重要な経験になる。BPW のリーダーと会員はこのことに留意して常に私たちがもっているノウハウを活かし、利用し、情報交換を行うべきである。

2005～2008年のテーマは、「女性の専門的可能性の開発（能力を引き出すこと）において BPW がリーダー的存在になること、リーダーシップを発揮すること」である。BPW の会員一人一人がこのことをよく自覚し、この目的に向かって邁進するべきであると考えられる。BPW のネットワークは、これを自覚することによって効果的に働き、会員が得るところも大きい。効果的ネットワークは女性たちを目標の達成に導き、成功は新たなメンバーを呼び込む。すなわち明確な目的を持って、BPW のネットワークに自らの時間、エネルギー、資金を注ぐとする新たな会員たちである。この循環が、いかに BPW が有能で成功へのネットワークとして再生するかを示すことができるのであり、この進路を一緒に歩もうではありませんか。

(要約 山野幸子/BPW 国際委員)

2005 年度 日本 BPW 連合会ブロック研究会ご案内

中部ブロック 担当：BPW 岐阜クラブ

講演：「だれが未来を創るのか」

～政治・女性・リーダーシップ～

講師：衆議院議員 野田聖子氏

日時：2005年 7月 30日(土)

13:00～15:00(受付 12:30～)

会場：ぱるるプラザGIFU 5F 会議室

058-269-4340(代) 岐阜市橋本町1-10-11

JR 岐阜駅歩 1分 名鉄新岐阜駅歩 5分

参加費：無料 一般の方のご参加歓迎。

お問合せ 岐阜クラブ 実行委員長 森川幸江さん迄



他ブロック開催予定

ブロック担当	日程・会場	テーマ・講師
北海道・東北 / 旭川	10月22日(土)午後 旭川グランドホテル	講師テーマ 検討中 道議・市議(ともに会員)とのトークを予定
関東・山梨 / 山梨	11月3日(祝)検討中 甲府駅前ベルクラシック	日程 講師 テーマ 検討中
近畿 / 和歌山	9月17日(土) 和歌山市	日程 講師 テーマ 検討中
西日本 / 福岡	11月5日(土) 早良市民センター 4F 大ホール 福岡市早良区百道 2-2-1	リレートーク 「あなたにとっての男女 共同参画とは...」 潮谷愛一氏/熊本県 知事の夫 中島玲子氏/元町長

2005年度第1回 日本BPW連合会 評議会

日時:2005年4月24日(日)13:00~16:50

出席:各クラブ会長・拡大役員 於:東京八重洲ホール
会長挨拶

- ・仙台大会へのお礼
- ・総会決議のクラブ内周知、協力依頼
- ・映画「ペアテの贈り物」について

事務局報告

代表アドレス変更

事務局 office@bpw-japan.com

(従前の info@bpw-japan.com は広報用)

議 題

1) 2005年度 中心となる活動

会報 No. 36に掲載どおりで継続。

中心となる活動は3つ

統一テーマ“A World of Peace”(世界の平和に向けて)に沿った活動を継続する。
サブテーマ~政治・女性・リーダーシップ~のどれに中心を置くかは各クラブに任せる。

スイスコンGRES

- ・BPWIのヤング委員長に、連合会ヤング委員長の二ノ宮寛子さんが立候補しているため、当選させたい。
- ・BPWIはコンGRESで特にリーダーシップを強調。
- ・日本からの決議案が、第1番目となった。ロゴマーの地球儀に日本の表示がないので表示を、という内容。
- ・コンGRESへの理解は難しいが、皆でコンGRESに参加していると思ってもらえるように努力したい。

組織

会員減の傾向、なぜ増えないのか、各クラブにいるんな事情があると思うので、原因等を各クラブで考え、対処の具体案を検討、提案してもらいたい。連合会としては、直接役員が各クラブに出向き積極的に参加して、いっしょに解決していく方針。コーディネートは事務局が行う。

2) 2005年度 各委員会活動計画案

計画案は評議会資料委員会計画参照

各常任委員会予算 総額 30万円

- ・企画15万・組織1万・国際1万
- ・広報1万・財務2万・ヤング10万

3) ブロック研究会及びスピーチコンテスト開催について

ブロック研究会・ブロック研究会企画書の説明

主催「日本BPW連合会」、各ブロックで企画・実施。

企画書に基づいた提案をする。

- ・ブロック研究会3万円予算措置条件として
- A.テーマは2005年度統一テーマに添ったものであること
- B.公開であること(会員増につなげる為にもメディア等でのPRが必要)

遅くとも実施2ヵ月前迄に周知する

スピーチコンテスト

- ・実施マニュアルについて、修正中のものを担当クラブに送っているが、出来次第全クラブに通知する。

4) スイスコンGRESについて

- ・開催日程等は、HP、会報No.36、NL80号に掲載。創立75周年の記念すべきコンGRESである。
- ・コンGRESのテーマは3つ リーダーシップ ネットワーキング 組織強化
- ・各自登録を原則としているが、連合会としては参加者の把握が必要なので、登録用紙を5月25日までに提出し

てください。追加申込みは可能。その後に参加決定した方は、事務局長あて連絡してください。

- ・コンGRES代表・代表代理各4名...代表数は会員数で決定。

代 表: 黒崎伸子・平松昌子・布柴靖枝・二ノ宮寛子
代表代理: 出村和子・栗林英子・猿渡英代子・栗山有香子

- ・決議案、規約改正案は、各クラブに送付しているため、皆さんがどういう意見を持つか(○×のみではなく)クラブで話し合っ、5月25日までに意見を提出してもらい、5月29日の役員会で討議する。

- ・決議案15(カナダの決議案)について

これに関する対応は連合会に一任することを承認して欲しい。ただし、各クラブで討論して、意見を出してもらうことは差し支えない。この理由は以下の通り。

この問題は、日本の中でもいろんな立場の方があり、非常に微妙な問題であること 既にバンクーバー大会、メルボルン大会を経て各国の多くのメンバーの力で前向きに検討され決着した決議案であること 同じ内容で言葉を変えた決議案であること 前もって日本BPWへの連絡は何もなかったこと ~ のような理由で、現在、BPWI役員などと折衝中であること など。

5) 会費納入状況・直近の会計残高報告、会費未納クラブの今年1月1日現在の会員数確認

引継による名義変更時間に時間を要し、直近の通帳記帳が出来ていないため、2月1日時点での報告。

- ・会費納入状況 1月末までの会費入金...神戸・山形・米沢・苫小牧和歌山・東海・大阪

- ・直近の会計残高報告...1月入金、総会支出、総会の残金、財務からの一時入金等を計算し、一般会計残高は現在、約100万円。

6) 国連インターン派遣 報告

- ・今回が2度目の派遣。初年度、今年度ともに3名派遣。成果は上がっている。インターンは積極的であった。
- ・今年は「北京+10」で参加者6,000人。UN-CSW委員会は、今年は特別なので全体会議は総会場で行われ、各団体のうち先に登録した2名が傍聴できた。
- ・今年と去年の違い...宿泊したホテルが各自違っていたので、きめ細かいガイダンスが出来なかったことが良くも悪くもあった。

7) その他 連絡事項

友の会より(松本雅子友の会副会長報告)

前役員からの引継ぎ内容・現状説明・今後の方向: 事務処理(名簿整理・納入状況・収支明細)の積極的OA化等・友の会への協力依頼

事務局より

- ・BPWフィンランド会員の愛知万博でのイベント紹介

8) 今年度クラブの現状・活動の方向性等について

○バックラッシュ、ジェンダーフリー等に焦点をあて、各クラブの地域、行政の現状について、また、クラブの状況、活動方向等について、発言して頂いた。

編集後記: 今号の編集にあたっては黒崎会長、山野国際委員長に大変お世話になっていながら、広報担当の手際の悪さから、HPへのUPが七月になってしまい大変恐縮しています。次号はコンGRES特集です、印刷してお届けします。(佐)